

| | | | |
|-----------|--|------|---|
| 講義名 | 国際物流論 | | |
| 科目区分 | 学科専門 展開 | | |
| 担当教員 | 森 隆行 | | |
| 開講期・曜日・時限 | 後期 月曜日 4時限 | 授業形態 | |
| | 2018年度 人間社会学部 人間健康学科 スポーツ健康コース / 2018年度 人間社会学部 人間健康学科 健康マネジメントコース / 2018年度 人間社会学部 人間健康学科 / 2018年度 人間社会学部 観光学科 ホテル・ブライダルコース / 2018年度 人間社会学部 観光学科 観光事業コース / 2018年度 人間社会学部 観光学科 / | | |
| 履修開始年次 | 2年生 | 単位数 | 2 |
| | | 備考 | |

主題と概要

物的流通（物流）は、生産と消費の空間的・時間的隔たりを埋める役割を果たしている。企業活動の高度化によって、物流は、原材料・部品の調達から生産管理をも含めた総合システム、すなわちロジスティクスへと発展しようとしている。日本企業の海外発展、水平分業の拡大等に伴い、物流は国内に留まらず国際的な発展を見せている。輸出に限らず、製品輸入の拡大、三國間貿易の増大など、国際物流は新たな展開を見せている。一方、国際物流の供給面においても、コンテナリゼーション等輸送技術の革新や国際複合一貫輸送の発展が顕著である。

本講義では、国境を越える企業の原材料調達から生産、最終顧客への配送に至る活動について、国際物流サービスの需給両面から分析する。また、国際物流システムの視点より、国際物流を産み出す日本企業の国際ロジスティクスがどのように構築され、管理されているかについて、理解を深めていく。

到達目標

国際物流における海上輸送及び航空貨物輸送について業務フローの概略を理解する。

提出課題

講義の中で提示する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

講義の中でフィードバックする

評価の基準

講義2-3回に一度の割合で小テストを実施。小テストの成績（合計点）で評価する。小テストは、5-8回実施する。毎回の講義の中で実施の案内をするので、講義に注意のこと。期末試験は実施しないので、小テストをきちんと提出すること。

履修にあたっての注意・助言他

世界政治・経済など企業の経営環境が激変する中での企業変革の流れとの関係で物流戦略を理解するよう、世界情勢と企業活動の両面からの平素より問題意識をもって受講すること。

| | | | |
|-----|--------------------------------|-----|-------|
| 教科書 | 「現代物流の基礎」森隆行著、同文館出版、2018年第3訂版。 | 森隆行 | 同文館出版 |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

プリント資料及び参考文献

参考文献：
 森隆行編著『外航海運概論』成山堂書店、2004年
 鈴木暁著『国際物流の理論と実務』成山堂書店、2001年

- 授業計画**
- 1 国際物流の基礎
 - 2 物流の概念と国際物流
 - 3 国際物流の生成と発展過程
 - 4 国際物流の近代的特点
 - 5 国際海上貨物輸送の現状
 - 6 貿易取引と海上輸送
 - 7 海上コンテナ輸送
 - 8 船積み実務と船荷証券・貿易決済
 - 9 コンテナ輸送と港湾
 - 10 コンテナ貨物と通関
 - 11 国際物流における安全対策
 - 12 国際物流の窓口としての神戸港とその歴史
 - 13 国際航空貨物輸送と航空貨物の流れ
 - 14 国際複合一貫輸送
 - 15 まとめ

授業形態（アクティブ・ラーニング）

| |
|--|
| ア：PBL（課題解決型学習） |
| イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） |
| ウ：ディスカッション、ディベート |
| エ：グループワーク |
| オ：プレゼンテーション |
| カ：実習、フィールドワーク |

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

1回の講義につき2.5時間の復習として講義内容をまとめる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考